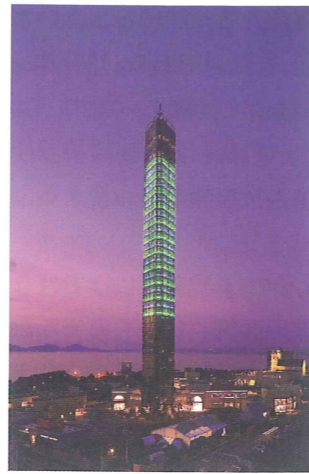




## 瀬戸大橋開通と共に 完成したランドマーク プレイパーク ゴールドタワー

[香川県綾歌郡宇多津町]

瀬戸大橋の四国側の玄関口である宇多津町に、金色に輝くランドマークがゴールドタワーである。四国をイメージしたひし形の平面形状で、7,000枚の金色のハーフミラーの壁面が高さ158mにも及ぶ様は、タワー建築としての存在感を十分に発揮している。完成した1988年は瀬戸大橋開通と重なり、地域の人々の未来への希望を投影した象徴的建築である。



左) ハーフミラーにより金色に光る外観  
右) 青と緑のライトアップは毎日変わる

### 新宇多津都市とゴールドタワー

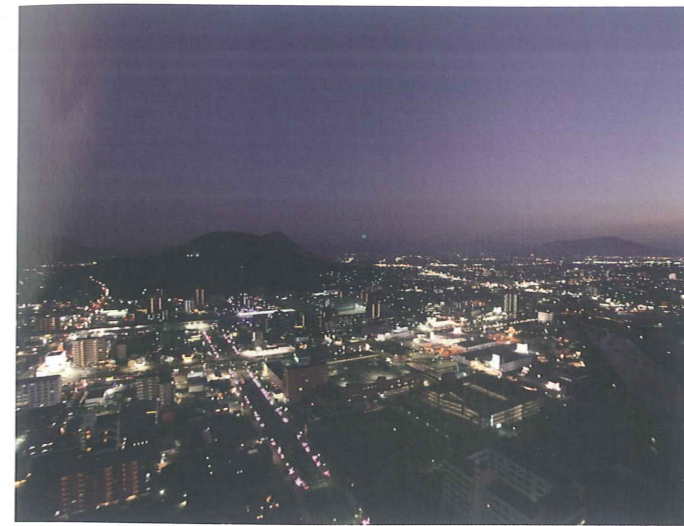
10年間の工事期間を経て、瀬戸大橋が1988年に完成した。瀬戸大橋のルートになった宇多津町と坂出市は、もともと全国でも有数の生産量を誇る大規模な塩田地帯であったが、塩業の機械化に伴う塩田の廃止により、広大な開発用地が生まれた。宇多津町は、駅を塩田跡地に移動するなどの大規模な区画整理を行い、大型ショッピングモールや、大規模マンションなどが立ち並ぶ、“新宇多津都市”を形成した。

その中でもシンボリックな存在で、観光施設としての中核を担ったのがゴールドタワーである。このタワーは、四国に本社のあるユニ

チャーム(株)が事業主となり建設され、展望の用途に特化した建築である。タワーの足元には、ショッピングゾーンや、黄金の便器を飾った世界のトイレ館などが併設された。また、周辺にガラス館や温泉施設などもでき、賑わいの中心地になった。

### ひし形の平面形状タワー

地上部分にタワーエレベーター搭乗口がある。その上階は3層からなり、表示では、1階～3階が高さ119m以上の展望フロアとなっている。2基ある展望エレベーターを上がっていくと、内部のフレーム構造がよく見える。ひし形の平面形状は、対角をしっかりと



左) こんぴらさん側の夜景  
右) 瀬戸大橋側の夜景

と梁で緊結された六角形に、2個の三角形を足してひし形を形成しており、強固な面剛性を持つ六角形コアが層状にある状態が見える。また、地震時の水平力緩衝装置として、アクアダンプ(水槽によるスロッシングダンパー)が設置されている。

展望フロアでは、360度の眺望が広がる。外部のガラス清掃を行っていないわりに、汚れは気にならない。また、ガラスの押さえ部分は特殊な工法を採用しているのか、見た目には金属だけで押さえられているようにも見え、劣化もほとんど見受けられない。

### 栄枯盛衰を映し出す

ゴールドタワー完成の年は、瀬戸大橋開通ブームもあり、周囲が渋滞になるほどの来場者が訪れた。その後のバブル景気にも乗り、当初数年間は順調に推移したようである。しかし、バブル崩壊と共にブームも去り、2001年に施設を閉鎖するに至った。金色づくしの企画が、リピーターの心を捉えなかったのではないと思われる。

2004年には坂出市の味匠グループが運営主体となり、プレイパークゴールドタワーとしてリニューアルオープンすることになった。ライトアップの色は、翌日の天気予報が雨なら青、晴れなら緑に変えたり、または同社経営の東側山頂にある結婚式場のイベントとリンクし、青と緑の両方が点滅したりする。

最近でも年間4～5万人の来場者があり、

結婚式2次会のような貸切需要もある。

### 瀬戸内の価値を再発見

民間が事業主である100m級の展望専用のタワー建築は、全国でも稀有な存在である。展望台に上ってみて、最近の眺望トレンドのかなり多くの部分が、このゴールドタワーにはあると感じた。2010年に瀬戸内芸術祭があり、瀬戸内海の美しさ、多島美の美しさ、島のすばらしさを再発見したが、タワーからの眺望でも実感することができる。また、ゆったりと航行する船、瀬戸の夕日、こんぴらさんや讃岐富士などの山の景観、瀬戸大橋、丸亀城、新都市や工場の夜景など、気になる景観が凝縮されている。坂本龍馬や平清盛も往来した備讃瀬戸の海域を見ながら、歴史に思いをふけるのも楽しい時間だ。

展望専用建築として高いポテンシャルのあるゴールドタワーは、地域と共生し、未永く金色の光彩を放ち続けるであろう。

神余智夫(樹清和設計事務所、香川会)



### TOWER DATA

- プレイパーク  
ゴールドタワー
- [竣工] 1988年
- [タワーの高さ] 158m
- [運営主体] (株) 味匠

展望フロアにある  
“恋人たちの鍵”※

画像提供: プレイパークゴールドタワー  
(※印の写真は筆者提供)



連載  
まちを彩る  
タワー  
[第9回]